

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

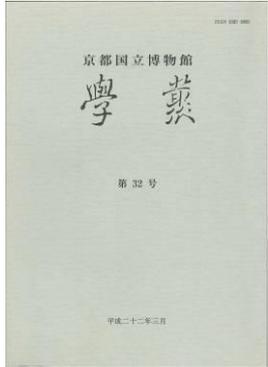
事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究の成果の発信								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長 立道恵子					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・（博物館情報アーカイブについて詳細は処理番号 6611 参照） ・（国際的な講演・研究集会について詳細は処理番号 3211 参照） ・定期刊行物（紀要・図版目録・修理報告書・法隆寺献納宝物調査概報・研究誌『MUSEUM』（年6回））5件、特別展図録・特集陳列印刷物（特別展図録『細川家の至宝一珠玉の永青文庫コレクション』・特集陳列図録『清朝末期の光景—小川一眞・早崎稔吉・関野貞一』等）8件、特集陳列リーフレット（『日本美術の流れ 浮世絵』等）4件、その他（『ザールデリー—パキスタン古代仏教遺跡の発掘調査—』・『根付 高円宮コレクション』）2件を刊行した。これらの出版物により、国内外に広く当館の収蔵品に関する調査研究の成果を発信することができた。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・『東京国立博物館紀要』には、舟木家本「洛中洛外図屏風」の近世初期風俗画における位置づけ（田沢裕賀）、海外日本美術展にみる「日本」（鬼頭智美）の研究論文2本を収録。当館所蔵品の詳細な研究報告は、研究員の責務を果たすものである。 ・『東京国立博物館図版目録 古写経篇』には、当館の収蔵品約800点を掲載し、その全貌を明らかにした。 ・『法隆寺献納宝物調査概報XXI』は、国宝聖徳太子絵伝10面のうち、第7・8面についての詳細な調査報告である。彩色の剥離等により図様が不明瞭であったが、拡大写真を多用し、解説を付すことにより描かれた内容が把握できるようになった。聖徳太子研究に寄与するところが大きい。 ・特集陳列の図録は、その内容や展示作品のみを紹介したのではなく、多くの参考図版を入れたわかりやすい解説書として、来館者より好評を得ている。特に、『ワヤン—インドネシアの人形芝居—』の図録には、当館としてはじめて、巻末にワヤンのポップアップカードを付けるなど、多くの方々に作品に親しんでもらえる図録の制作を心がけた。 ・『ザールデリー—パキスタン古代仏教遺跡の発掘調査—』は、当館がはじめて行った国際的な学術発掘調査の報告であり、パキスタンにおける仏教美術・考古学の研究に大いに寄与するものである。 ・『根付 高円宮コレクション』は、故高円宮殿下が妃殿下とともに蒐集された根付が当館に寄贈されるにあたり制作された図録であり、現代根付を広く紹介するものである。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22
	Museum 発行	6回	6回	A		6	6	6	6
	定期刊行物	5件	—	—		5	6	6	5
	特別展図録・特集陳列印刷物	12件	—	—		6	11	10	12
	その他	2件	—	—		1	2	2	2
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会にかかわる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								



特集陳列 『ワヤン—インドネシアの人形芝居—』の図録

【書式A】

施設名 京都国立博物館処理番号 3112

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化								
事業名	(1) 収藏品等に関する調査研究の成果の発信								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長 西上 実					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教美術に関するシンポジウムの報告書「予言と調伏のかたち」を刊行した。 ・ (特別展覧会「高僧と袈裟」関連国際シンポジウムについて詳細は処理番号 3212 参照) ・ 研究紀要「学叢」第 32 号を刊行した。 ・ 社寺調査報告書 24 (光明寺) を刊行した。 ・ 文化財修理報告書 6、7 を刊行した。 ・ 社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「法然」を開催し、図録を刊行した。 ・ 各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「長谷川等伯」を開催し、図録を刊行した。 ・ 各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「上田秋成」を開催し、図録を刊行した。 ・ 各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「高僧と袈裟」を開催し、図録を刊行した。 ・ 各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「筆墨精神」を開催し、図録を刊行した。 ・ 平成 20～21 年の新収品について調査成果を盛り込み、「新収品展」を開催し、公開した。 								
補足事項	<p>・ 『学叢』第 32 号で、論文 3 本、作品研究 2 本、調査報告 1 本を発表した。</p> <div style="text-align: center;">  <p>『学叢』第 32 号</p> </div>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	—	—	—	—		—	—	—	—
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収藏品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	--

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究の成果の発信									
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生						
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要『鹿園雑集』12号を刊行し、同誌及び各種の学術誌において、研究員各自の収蔵品等に関する調査研究成果を発表した。 「正倉院展」会期中に正倉院学術シンポジウム 2010「正倉院宝物はどこで作られたか」(10月24日、奈良県文化会館、参加者数186名)を開催した。 前年度に引き続き、『鹿園雑集』12号に「奈良国立博物館文化財保存修理所修理一覧」を掲載し、修理成果の一端を紹介した。また、併せて修理報告資料を整理した。 前年度に引き続き、ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開し、また文化財保存修理所で修理した文化財を、入場無料ゾーンを利用し写真パネル等で展示した。 『平城遷都1300年記念 大遣唐使展』(特別展図録)、『仏像修理100年』(特別展図録)、『第62回正倉院展』(特別展図録)、『The 62th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)、『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)、以上4冊の展覧会目録を刊行、また特別展「至宝の仏像」開催に併せて『なら仏像館 名品図録』を刊行した(以上は全て作品解説付き、展覧会担当者の総論や各論等を掲載)。 平成14年以来取り組んできた東大寺の塑造神将像に関する光学調査等の成果をとりまとめた報告書『奈良時代の塑造神将像』(中央公論美術出版、12月刊)を刊行した。 当館敷地内に存在する春日東西両塔跡及びその周辺遺跡の状況を正確に把握し、今後の保存に資するべく、本館南東に調査区(219㎡)を設け、奈良文化財研究所と共同で発掘調査を実施した(11月15日～12月27日)。調査の過程で、東塔院の北東隅の位置を確定する遺構の検出などの成果が得られ、新聞各紙で取り上げられた。12月17日～21日には現場見学会を実施(参加者約300名)し、概要をまとめた資料を配布した。 読売新聞紙上で「鹿園観照-奈良国立博物館で見る名宝」を連載し、展示作品について定期的な紹介を行った。また特別展開催期間中にも読売新聞紙上で出陳品紹介の連載を行った。 									
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 最新の調査研究の成果を盛り込んだ展覧会目録を刊行し、いずれも非常に充実した内容であるとの評価を得た。 塑造神将像の報告書では、塑像の内部構造に関する従来の定説を覆す、当館の調査による画期的発見を、広く示すことができた。 特別展の会期中、それぞれの内容に応じた学術シンポジウムを開催した。いずれも第一線で活躍する研究者を招聘し、知的刺激に満ちた研究発表・討論を催すことができた。 敷地内における発掘調査は、奈文研との初の共同調査であることが特筆される。 新聞紙上で展示品・所蔵品についての解説や研究成果の発表を行い、当館の活動を広く一般にアピールできた。 									正倉院学術シンポジウム風景
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22	
	展覧会図録刊行	5冊	—	—		6	7	5	5	
	シンポジウム開催	2回	—	—		2	1	3	2	
	研究発表・講演	15回	—	—		4	4	35	15	
	研究論文等	33本	—	—		21	16	22	33	
	「たより」刊行 新聞への連載	4回 33回	— —	— —		4 37	4 55	4 51	4 33	
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調									

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 3114

中項目		3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与							
事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信								
担当者	担当部課	交流課 博物館科学課	事業責任者	交流課長 環境保全室長 保存修復室長 主任研究員 文化交流展室長	宮本裕一 今津節生 藤田励夫 鳥越俊行 河野一隆				
実績・成果	<p>①研究紀要『東風西声』第6号を刊行（3月発行）。特別展図録を刊行。</p> <p>②国際シンポジウム「契丹帝国（遼王朝）の美術と文化」を開催した。</p> <p>③文化財修理に関する印刷物を刊行した。</p> <p>④保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させた。</p> <p>⑤広報テレビ番組「九博のたからもの」（RKBテレビ）の制作・放送（5月～9月）</p> <p>⑥新聞紙上で展示作品紹介の連載を行った。</p>								
補足事項	<p>①特別展図録『パリに咲いた古伊万里の華』・『馬 アジアを駆けた二千年』・『誕生！中国文明』・『没後120年 ゴッホ展』・『Artisanship and Aesthetic of Japan and Thailand』を刊行した。</p> <p>②国際シンポジウム「契丹帝国（遼王朝）の美術と文化」を開催した。</p> <p>③『九州国立博物館 博物館科学部門の取り組みⅢ（2009-2010）』にて、「国宝 琉球王国尚家関係資料の修復工程」を報告した。</p> <p>④文化財保存修復研修、古文書保存基礎講座、文化財保存交流セミナーを行った。</p> <p>⑤九州国立博物館が所蔵または借用している作品1・2点を学芸員が紹介する短編番組（1回2分30秒）を22回分制作し、RKB放送にて5/3から9/25まで、毎週月曜夜19:55より放送した。（平均視聴率 8.6%）</p> <p>⑥西日本新聞に『パリに咲いた古伊万里の華』・『黄檗の名宝』、読売新聞に『誕生！中国文明』を連載し、展示作品について紹介を行った。</p>			 <p>国際シンポジウム 「契丹帝国（遼王朝）の美術と文化」</p>		 <p>広報番組「九博のたからもの」 タイトルバック</p>			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	研究紀要「東風西声」	1冊	—	—		1	1	1	1
	特別展図録刊行	5冊	—	—		4	4	4	5
	シンポジウム開催	4回	—	—		—	6	4	4
	シンポジウム参加者	566人	—	—		—	—	1,020	566
年度実績評価総括	S Ⓐ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品等に関する調査研究成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	国際交流室長 鬼頭智美					
実績・成果	<p>海外より計15名の研究者を招へいし、当館研究員延べ10名を海外に派遣して、展覧会事業の推進および学術交流を行った。また、日中韓国立博物館長会議、ICOM 上海大会に職員を派遣し、日中韓三館の協力体制を確認するとともに、世界の博物館との交流を行った。</p> <p>さらに、スイスより1名研修生を受け入れ、特に博物館における展示デザインについて、当館のノウハウを学んでいただく機会を提供した。</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 中国、韓国、トルコより15名の研究者を招へいした。また当館研究員延べ54（うち27名は科研費による）を中国、韓国、欧州へと派遣し、最新の学術情報取得・交流および展覧会事業を推進した。これらの交流活動により、欧州および東アジア（中国・韓国）の主要館・機関との連携を強化するとともに当館収蔵品とその保存・活用（展示および教育普及）についての意見交換を行い、さまざまな新知見を得た。 中国国家博物館で行われた日中韓国立博物館長会議に出席、同館および韓国国立中央博物館との情報交換およびネットワーク強化を行なった。 上海で開催された ICOM 定期総会に出席、各国博物館との交流を行った。 海外展としては、「トルコにおける日本年」を記念して「日本の美 5000 年」展を開催、また上海万国博覧会記念「唐宋元画名品展」が、多方面から高い評価を得た。来年度は、米国・ヒューストン美術館に新設の日本室への長期貸与協力に向け準備を進めている。 欧米の主要館が構成する国際展覧会オーガナイザー会議（IEO）に運営委員会メンバーとして継続参加、欧米主要館およびオセアニア各国とのネットワーク強化につとめた。 				 <p style="text-align: center;">トプカプ宮殿博物館「日本の美 5000 年」展</p>  <p style="text-align: center;">日中韓国立博物館長会議(中国国家博物館)</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	海外研究者の招聘	15名	6名	S	年 変 化	10	15	26	15
	海外への研究者派遣	54名	6名	S		22	25	16	54
	海外研修生の受入	1名	—	—		2	4	2	1
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘するとともに、館研究員を海外に派遣、研究者交流を活性化することにより、博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

【書式A】

施設名 京都国立博物館処理番号 3212

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化								
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 海外からの研究者の招聘 7名 海外への研究員の派遣 27名 うち、国際会議への派遣 9名 国際シンポジウム「染織品にみる東アジア交流 ―宋・元・明時代の中国とその周辺―」(11/13)を開催した。 								
補足事項	<p>平成22年度の国際シンポジウムは、11月13日に「染織品にみる東アジア交流 ―宋・元・明時代の中国とその周辺―」をテーマに開催し、国内外の研究者3名が研究発表を行い、パネル・ディスカッションでは活発な討論がなされた。213人が参加し、熱心に聞き入っていた。</p> <p>海外からは、 中国シルク博物館上級研究員 周 暘氏 韓国伝統文化大学教授 沈蓮玉氏 の2名を迎えた。</p> <p>・特別展覧会「高僧と袈裟」 中国シルク博物館 Zhang Shuping ほか3名 を作品随伴、展示立会い、開会式出席、として招へいした。</p> <p>・研究員を作品調査、科研費調査、海外展協力及び国際会議出席などで派遣した。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	海外からの研究者招聘	7人	5人程度	A		7人	9人	29人	7人
	海外への研究員の派遣	27人	6人程度	S	21人	18人	13人	27人	
	国際シンポジウム参加人数	213人	—	—	285人	190人	288人	213人	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								



「国際シンポジウム・パネルディスカッション」

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協定を結んでいる4館のうち2館との間で研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。中国・河南博物院からは研究員2名を1ヶ月間招聘し、韓国国立慶州博物館との間では研究員2名を各1ヶ月間招聘、当館から研究員1名を約1ヶ月間派遣した。 ・正倉院展開催に際し、韓国国立慶州博物館から館長ほか1名を招聘、正倉院宝物の保存管理や日韓両国の文化財行政等について意見交換を行った。また慶州博における特別展「元暁」の開催に際して当館から館長以下3名を派遣し、学芸部長が講演を行うなどしたほか、特別展「皇南大塚」開催に際しても当館から研究員2名を派遣した。 ・「大遣唐使展」における海外からの文化財借用に際し、外国人研究者（米国6名、中国6名）をクーリエとして、また中国・陝西省の文化財関係者5名を代表団として受け入れ、同展出陳作品及び文化財の管理・展示等に関する情報交換を活発に行った。 ・「大遣唐使展」会期中に国際学術シンポジウム「東アジアの造形芸術と遣唐使の時代」（6月5日、於：奈良国立博物館講堂、参加者数148名）を実施し、米国人研究者1名をパネリストの一人として招聘した。 ・韓国国立中央博物館における特別展「高麗仏画大展」会期中の10月28日に同館で開催された国際学術シンポジウム「東アジア仏教美術における高麗仏画」にて、当館研究員2名が研究発表及びコメントを行った。 ・米国・メトロポリタン美術館で開催された特別展「上都から大都へ：フビライ汗の世界」（22年9月20日～23年1月2日）の展示・撤収に際して、クーリエとして研究員各1名を派遣し、併せて米国における東アジア美術研究の現状について、現地研究者との間で情報交換を行った。 								
補足事項	<p>① 国際交流協定を結ぶ館を中心とした、海外各館との交流を通して、将来の共同調査や展覧会開催に向けた実りある情報交換を行うことができた。</p> <p>② 特別展「大遣唐使展」の開催に際してはクーリエ・代表団との間で有意義な情報交換を行うことができ、会期中の国際学術シンポジウムでも、世界的な東洋建築史家であるペンシルバニア大学・スタインハルト教授を招聘し、知的刺激に満ちた質の高い研究発表・討論を行うことができた。</p> <p>③ 当館からの研究員派遣では、派遣先で文化財調査を行うことにより、仏教美術に関する当館の調査研究・展示活動を広く世界的視野に立って展開する上で、貴重な情報の収集を行うことができた。また海外における特別展への協力や研究発表・講演を通して、当館の活動の一端を対外的に発信することもできた。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	海外の研究者招聘	9人	6人	S		9	9	29	9
	職員の海外への派遣	14人	6人	S		6	6	30	14
	国際シンポジウム開催	1回	—	—		—	—	1	1
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								



国際学術シンポジウム
「東アジアの造形芸術と遣唐使の時代」風景

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号

3214

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与									
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施									
担当者	担当部課	交流課 総務課	事業責任者	交流課長 宮本裕一 総務課長 岩崎英明						
実績・成果	<p>①海外研究者の招聘（9人）</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流促進のため韓国の博物館長を招聘した。 国際シンポジウムのため中国の研究者を招聘した。 平成22年度在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業及びアジア諸国博物館・美術館研究協力事業の実施に係る研究者を招聘した。 <p>②海外への研究者派遣（77人）</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国 内蒙古博物院との学術文化交流協定を締結した。 モンゴル カラコルム博物館への専門家派遣（国際交流基金事業）を実施した。 海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」開催した。 <p>③国際シンポジウム「契丹帝国（遼王朝）の美術と文化」開催した。</p>									
補足事項	<p>・海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」（於：バンコク国立博物館）は、平成19年度からJICAと協力して実施してきた人材養成を中心とする共同事業のひとつの成果となるもので、展覧会開催準備段階から人的交流の促進が図られた。</p> <p>また、平成22年度在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業及びアジア諸国博物館・美術館研究協力事業の実施に係る研究者招聘事業では米国のフリーア/サックラー美術館より研究員を招聘し、当館の文化財保存修復技術および修理技術者との交流を深め、交流セミナーを実施した。</p> <p>③国際シンポジウム「契丹帝国（遼王朝）の美術と文化」これまでの共同研究等の実績を踏まえて更なる交流を推進するため、8月に中国・内蒙古博物院と学術文化交流協定を締結した。</p> <p>12月に開催した国際シンポジウムでは、内蒙古より4名の研究者を講師に招き、契丹族の国・遼王朝に焦点を当て、その美術と文化について一般参加者へ発表した。</p>									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22	
	海外研究者招聘	9人	3人	S		38	18	37	9	
	海外への研究員の派遣	77人	4人	S		44	35	46	77	
	国際シンポジウム 回数	1回	—	—		4	1	1	1	
	国際シンポジウム参加者	117人	—	—		586	385	300	117	
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調					



海外展 内覧会の様子



国際シンポジウムの様子

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与												
事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施												
担当者	担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸									
実績・成果	<p>1. 特定非営利活動法人文化財保存支援機構が主催する専門家セミナーに東京国立博物館が共催し、東京国立博物館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(平成22年8月30日(月)～9月10日(金)の10日間)を開催した。東京国立博物館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容としては、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。</p> <p>2. エジプト国立大エジプト博物館保存修復センターにて「東京国立博物館の臨床保存の実践についてのセミナー」を実施(平成22年9月29日)。科学研究費補助金(基盤(S)(平成20年～24年))「博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究」の経費による。</p> <p>3. ルーブル美術館素描版画部門にて「東京国立博物館の臨床保存の実践についてのセミナー」を実施(平成23年1月11日)。科学研究費補助金(基盤(S)(平成20年～24年))「博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究」の経費による。</p> <p>4. ストラスブール日仏大学会館にて「東京国立博物館の臨床保存の実践についてのセミナー」を実施(平成23年1月13日)。科学研究費補助金(基盤(S)(平成20年～24年))「博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究」の経費による。</p> <p>5. 大学院生のインターンを3名受け入れ、東京国立博物館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(平成23年2月14日(月)～25日(金))。</p>												
補足事項	<p>1. セミナーカリキュラムは5テーマに沿って2年間で120時間分を履修する。①「保存修復事業における調査診断法」、②「環境保全概論」、③基礎修理設計、④基礎材料論、⑤特講。参加者は34名であった。</p> <p>2. 大エジプト博物館保存修復センターでの参加者は51名。</p> <p>3. ルーブル美術館素描版画部門での参加者は41名。</p> <p>4. ストラスブール日仏大学会館での参加者は10名。</p> <p>5. 大学院生インターンは筑波大学大学院人間総合化学研究科世界遺産専攻博士前期課程1年1名、共立女子大学大学院家政学研究科被服学専攻修士課程1年1名、チューリッヒ大学大学院東アジア美術史日本美術史専攻修士課程2年1名であった。</p>									<p>「東京国立博物館の臨床保存の実践についてのセミナー」の開催風景(平成23年1月11日パリ・ルーブル美術館)</p>			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22				
	研修会開催 インターン受入れ	4回 3人	— —	— —		— —	1 3	4 2	4 3				
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)												
中期計画 記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。												
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調												

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 3312

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化								
事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 村上 隆					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 当館にて開催の特別展覧会において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 参加者 「長谷川等伯」展 52人 「上田秋成」展 40人 「高僧と袈裟」展 35人 「筆墨精神 -中国書画の世界-」展 39人 文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。参加大学院生：2名 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的な立場から指導・助言を行うことで双方の見識にプラスとなった。 文化財修復に関わる大学院生をインターンとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22
	研修会開催 実習生受け入れ	4回 2名	— —	— —		3 1	3 —	4 3	4 2
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施								
担当者	担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	保存修理指導室長 谷口耕生					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・修理所巡回を4回実施し、館長をはじめとする総務課、学芸部の館職員が修理所の各3工房を視察した。このことにより修理途中の文化財の修理状況を継続的に観察し、修理の工程を広く知る場を設け、修理について認識を高めることに努めた。 ・平成23年3月中の平日 午後5時から6時30分、当館講堂にて修理所研修会を実施した。文化財保存工房の絵画書跡の修理状況について、近年の実績のなかから、法華堂不空罽索観音立像（東大寺蔵）の修理を取り上げ、修理品の概要、修理中の調査及び新知見、修理方針、修理技術などについて、他の修理所工房のスタッフ、学芸部研究員と討議を行う。あわせて解説ボランティアも傍聴し、修理に関する理解を深めた。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年9月8日(水)、15日(水) 特別展「仏像修理100年」の関連イベントとして、文化財保存修理所の特別公開を臨時に開催した。300名の募集に対し、応募総数448名、参加者237名となった。他府県からの参加者も多く、満足度の高い感想が得られた。 ・平成23年2月9日(水) 昨年度に引き続き、恒例の文化財保存修理所の特別公開(第3回目)を開催し、一般の方々に対する文化財修理及び保護について広く知ってもらう予定である。(何名参加か入れる) ・平成23年3月26日(土)、美術史学会西支部大会を受け入れた。100名の学会員が講堂で三月堂修理の行程について聴講し、さらに文化財保存修理所を見学した。 								
									
	文化財保存修理所特別公開チラシ								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	研修会等の開催	6回	—	—		2	1	1	6
年度実績評価総括	S Ⓐ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 3314

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与										
事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施										
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	博物館科学課長	本田光子	環境保全室長	今津節生	保存修復室長	藤田励夫	主任研究員	志賀智史
実績・成果	<p>①紙文化財保存基礎講座</p> <p>a 文化財保存修復研修（地元大学の文化財保存技術専攻学生4名対象）8月16日～20日</p> <p>b 古文書保存基礎講座（地元博物館文化財関係者23名対象）23年1月21日、29日</p> <p>②文化財保存交流セミナー</p> <p>a 「東アジアの伝統的製紙技術－日中韓の最新調査研究成果－」4月23日 参加者32名</p> <p>b 「延喜式にみる製紙工程について」5月12日 参加者37名</p> <p>c 「韓国 保存科学の現況」23年2月8日 参加者23名</p> <p>d 「アメリカ国立スミソニアン機構 フリーア美術館アーサー・M・サックラー美術館 保存科学部東洋絵画修理室について」23年3月18日 参加者20名</p> <p>③ミュージアム IPM 支援者育成事業（文化庁受託事業）</p> <p>「市民と共にミュージアム IPM」</p> <p>研修会（講義）3回、研修会（ワークショップ）4回、研修会（見学・討議）3回、シンポジウム1回 延べ430名</p>										
補足事項	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>①a 文化財保存修復研修</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>①b 古文書保存基礎講座</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②a 東アジアの伝統的製紙技術</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②b 延喜式にみる製紙工程</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②c 韓国 保存科学の現況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>③市民と共にミュージアム IPM</p> </div> </div>										
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22		
	研修会等開催回数	22回	—	—		11	10	20	22		
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)										
中期計画 記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。										
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調										

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(4) 公私立博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 谷 豊信					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。 考古資料相互貸借事業は、二つの博物館と協力して実施した。 長崎歴史文化博物館（80件）、国立西洋美術館、韓国国立中央博物館、フランス・ギメ博物館などに、年度を越えた長期貸与を実施している。 本年度も海外からの借用希望が多く、文化庁主催の海外展を含め、12箇所の会場に160件の作品を貸与した。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 貸与に当たっては、先方の施設および責任体制の確認、作品の保存状況の確認、先方の事前調査への対応、作品が輸送・展示に耐えるかの判定、希望が重複した場合の調整、引渡し時および返却時の状況確認を行っている。 法人の考古資料相互貸借事業経費により、福岡市立博物館には13件を貸与し19件を借用、鹿児島県立歴史センター黎明館には32件を貸与し、34件を借用した。借用品により、当館では特集陳列「九州の経塚」と特集陳列「神秘に満ちた貝製品－鹿児島県広田遺跡－」を開催した。 韓国国立中央博物館開催の「高麗仏画大展」に当館は特別協力として参加し、韓国側による出品交渉・作品輸送などにも協力し、同展の成功の一端を担った。 平成18年度以降、国内の貸与先件数・貸与件数とも連続して減少していたが、本年度は昨年実績を上回っており、回復の傾向が見られる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p style="margin-top: 10px;">上：相互貸借で借用して展示した鹿児島県広田遺跡土の貝製品（重要文化財） 下：「高麗仏画大展」開幕式で挨拶する銭谷東京国立博物館長</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		19	20	21	22
	貸与件数	1,315件	—	—	経 年 変 化	1,302	1,125	1,104	1,315
	うち国内の貸与件数	1,155件	1,000件	A		1,118	1,012	913	1,155
	うち海外の貸与件数	160件	50件	S		184	113	191	160
	貸与先施設数	150件	—	—		149	135	124	150
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館に対し、展示等の充実に寄与するための貸与を促進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 3412

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化								
事業名	(4) 公私立博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 若杉準治					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 74機関に対し297件の収蔵品貸与を行った。(うち海外4機関に対し16件) 館蔵品の貸与件数：152件 寄託品の貸与件数：145件 計 297件 ウェブページでの「貸出作品リスト」の公開 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ギャラリー建替中は作品貸出を停止する博物館・美術館が多い中で、当館は、公私立博物館・美術館からの要請を受け、積極的に収蔵品の貸与を行い、各博物館、美術館の展示の充実に寄与した。 海外機関への貸与のうち、グリマルディ・フォーラム・モナコ「京都一東京、侍からマンガ」展に関しては、作品の輸送・展示作業・展示替え・撤収作業に延べ5名の職員を派遣するなど多大な協力を行った。 上海博物館(中華人民共和国)で開催の「千年丹青—日本・中国珍藏唐宋元絵画精品展」への作品貸与の際には、作品展示・展示替え・撤収・返送に延べ3名派遣し、国立故宮博物院(台北)で開催の「文藝紹興—南宋的藝術與文化特展」への作品貸与の際にも作品輸送・展示作業に職員を派遣するなど、作品貸与に伴い、多大な協力を行った。 韓国国立中央博物館で開催の「高麗仏画大展」へは寄託品を貸与した。 ウェブページで、上記の貸与作品についての全リストを、貸与館・展覧会ごとに公開して、「京博の収蔵品がいまどこへいけば鑑賞できるか」の情報をリアルタイムで提供した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	貸与件数 うち海外への貸与件数	297件 16件	約120件 —	S —		171 3	246 1	428 28	297 16
年度実績 評価総括	S <u>A</u> B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(4) 公私立博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	学芸部列品室	事業責任者	列品室長	岩田茂樹				
実績・成果	<p>・館蔵品と寄託品の貸出は、展覧会の回数において計 43 件、作品件数は計 159 件。</p> <p>[貸与先内訳] 国立 5 館、公立 30 館、私立 1 館、外国 4 件、その他 3 件</p> <p>[貸与作品内訳] 国宝 19 件、重要文化財 74 件、その他 66 件 館蔵品 47 件 (絵画 25 件、彫刻 6 件、書跡 3 件、漆工 1 件、考古 12 件) 寄託品 112 件 (絵画 42 件、彫刻 48 件、書跡 9 件、金工 6 件、漆工 4 件、染織 1 件、考古 2 件)</p> <p>・以下の 2 館と相互貸借事業を実施した。</p> <p>1. 山形県立博物館・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 貸与品：杉沢遺跡出土土偶 借用品：押出遺跡出土の縄文土器、漆器類</p> <p>2. 南相馬市博物館 貸与品：泉廃寺ほか出土の古瓦 (「内藤コレクション」・「原田コレクション」) 借用品：桜井遺跡出土の弥生土器、石包丁</p> <p>なお、押出遺跡出土品の展示に際しては、「縄文のムラー山形・押出遺跡からのメッセージ」と題するパンフレットを作成し、無料配布した。</p>								
補足事項	<p>・目標値をクリアしており、順調に推移している。</p> <p>・たんに数的目標を第一義とするのではなく、展覧会の意義と作品の保存状態を慎重に検討しつつ貸出を行っている。</p>								
									
	<p>館蔵 舞楽面 崑論八仙 神奈川県立歴史博物館「天狗推参」展に貸出</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	貸出件数	159 件	100 件	S	経年変化	137	163	108	159
	うち海外への貸与件数	14 件	—	—		3	2	1	14
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 3414

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(4) 公私立の博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	主任研究員 原田あゆみ					
実績・成果	国内 31 機関・海外 3 機関に所蔵品および寄託品を貸与した。(東京国立博物館からの長期管理換品を含む)								
補足事項	<p>○国内機関への貸与については、文化庁・奈良国立博物館・京都国立博物館・奈良文化財研究所飛鳥資料館・国立歴史民俗博物館のほか、九州・沖縄管内外の公私立博物館・美術館（東北歴史博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館・岡山県立博物館・佐賀県立九州陶磁文化館・宮崎県立西都原考古博物館・花巻市博物館・名古屋市博物館・静岡市美術館・和泉市久保惣記念美術館・福岡市博物館・板橋区立美術館・サントリー美術館など）からの出品要請に協力し、国宝 4 件・重要文化財 22 件を含む所蔵品・寄託品を貸与した。</p> <p>○海外機関への貸与については、メトロポリタン美術館・上海博物館・バンコク国立博物館への出品要請に協力し、所蔵品・寄託品を貸与した。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22
	貸与件数 うち海外への貸与件数	165 件 34 件	— —	— —		104 31	106 30	89 1	165 34
年度実績 評価総括	S <u>A</u> B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



重要文化財 色絵藤棚文大皿 鍋島
(G17・当館所蔵) サントリー美術館「誇り高きデザイン 鍋島」展 出品

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	学芸研究部	事業責任者	学芸研究部長 島谷 弘幸					
実績・成果	<p>公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、84件の援助・助言を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力（44件） ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言（12件） ・講演会やセミナー等における講演等での協力（11件） ・作品の展示・保存環境についての調査・指導（17件） <p>新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。</p>								
補足事項	<p>文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立美術館 特別展「花鳥画」中国・朝鮮部分監修 ・文化庁「文化遺産オンライン」の運営に関する検討会委員 ・厚木市史編さん事業に関する調査・助言 ・伊豆の国市教育委員会による大仁町史編さん事業に関する調査・指導 ・松戸市教育委員会 松戸市小金東漸寺所蔵「二十五菩薩来迎図」の市指定調査 ・スリランカ・シーギリヤ博物館 地域観光振興をテーマとした研修・国際協力機構（JICA）主催プロジェクト協力 他 <p>文化財の展示にかかる指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県立近代美術館 「小千谷縮・越後上布」展の展示・撤収指導 ・国立歴史民俗博物館 「武士とはなにか」展示プロジェクト委員 ・ふくやま書道美術館 特別展「王朝の名跡―三蹟を中心として」の企画・展示指導 ・オーストラリア ヴィクトリア州国立博物館への日本の武器武具などの展示・保存方法の指導助言 他 <p>講演会やセミナー等における講演等での協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根津美術館 特別展「南宋の青磁」特別講演会講師 ・文化庁 指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー講師 ・浦安市当代島公民館 「北斎の生涯と作品」講演会講師 ・国立民族学博物館 「博物館学集中コース」見学研修講師 他 <p>作品の展示・保存環境についての調査・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県立博物館・美術館、下関市立美術館、山種美術館 他 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	公私立博物館・美術館への援助・助言	84件	40件	S		124	134	139	84
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 3512

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化								
事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田 義雄 学芸部長 西上 実					
実績・成果	文化財の展示、修理にかかる指導助言（19件） 文化財の調査にかかる指導助言（46件） 講演会、セミナー等における講演等での協力（13件） 地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力（45件） 「京都国立博物館所蔵 能装束展」（金沢能楽美術館）にかかる援助・助言を行った								
補足事項	<p>文化財の展示、修理にかかる指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「細川家の至宝」東京会場作品撤収立ち会い ・宮内庁皇室用美術工芸品修理指導 <p style="text-align: center;">他</p> <p>文化財の調査にかかる指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成城大学 金剛寺蔵の聖教調査 ・沖縄県教育委員会 沖縄のガラス・玉等製品関係調査 <p style="text-align: center;">他</p> <p>講演会、セミナー等における講演等での協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会「京都きものサローネ」講義 ・講演会「料紙の加工一日・中・韓の典籍」の講師 ・シンポジウム「進化するミュージアム」の講師 <p style="text-align: right;">他</p> <p>地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県文化財保護審議会 <p style="text-align: right;">他</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22
	公私立博物館・美術館 への援助・助言	123件	12件	S		81	114	114	123
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・米国・メトロポリタン美術館における特別展「上都から大都へ：フビライ汗の世界」(22年9月20日～23年1月2日)開催にあたり、日本からの出陳品の出陳交渉及び輸送に際しての随行及び助言を行い、メトロポリタン美術館での展示にも立会った。 ・「奈良の古寺と仏像－會津八一のうたにのせて」展(新潟市會津八一記念館・新潟県立近代美術館：22年4月24日～6月6日、三井記念美術館：同7月7日～9月20日、奈良県立美術館：同11月20日～12月19日)に協力し、学術面での援助・助言を行った ・韓国国立中央博物館における特別展「高麗仏画大展」(22年10月11日～11月21日)開催にあたり、日本からの出陳品の出陳交渉及び輸送に際しての、随行及び助言を行った。 ・福井県立美術館における特別展「シルクロードと東アジアの仏教美術」(22年10月9日～11月3日)開催にあたり、出陳品の選定及び事前調査等に際しての協力・助言を行った。 ・独立行政法人科学技術振興機構(JST)が平城遷都1300年祭のメイン会場において大画面ハイビジョンで放映するために制作した、唐招提寺所蔵の東征伝絵巻(重文)全5巻の高精細画像を当館にて撮影した際に、作品輸送・取扱・助言などの協力を行った。また唐招提寺講堂における展示「国宝金堂平成大修理のあゆみ」(22年10月～。内容は修理の成果物・パネル・模型等)の開催にあたり、学術面での協力・助言を行った。 ・山形県立博物館が開催した特別展「縄文のキセキ半世紀の時を越えて」(22年10月9日～12月5日)に貸与した館蔵品の土偶1件の輸送に際しての随行及び助言を行い、現地での展示・撤収に立ち会った。また福島県・南相馬市博物館が開催した特別展「国史跡指定記念 古代陸奥国 行方の郡家－国指定史跡 泉官衙遺跡」(23年1月8日～3月6日)に貸与した館蔵品の瓦類139点の輸送に際しての随行及び助言を行い、現地での展示に立ち会った(以上は平成22年度考古資料相互活用促進事業による)。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の博物館・美術館等の展覧会への援助を通して、当館収蔵品や仏教美術一般の展示・普及等に大きく貢献することができた。ことにメトロポリタン美術館及び韓国国立中央博物館との間では、近年しばしば作品を貸与されるなど良好な関係を保っており、今後さらに連携を強化していく上でも、今回の協力は大変有意義である。また国内の公私立館に対する協力の面でも、今年度は実績をあげることができた。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	公私立博物館・美術館への援助・助言	35件	5件	S		5	5	25	35
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 3514

中項目 3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 岩崎英明					
実績・成果	公私立博物館等で開催された研究集会および講演会において指導・助言を行った。 ①文化財の修理にかかる指導助言 ②講演会、セミナー等における講演 ③文化財の調査にかかる指導助言 ④作品の展示、保存環境についての調査指導 ⑤古文書保存に関する専門講座を開催								
補足事項	①文化財の修理にかかる指導助言 ・国立民族学博物館：被災した民族資料の保存修復方法の研究実施のための助言 ②講演会、セミナー等における講演 ・日光輪王寺：「生物被害調査報告会」での講義 ・一般社団法人文化財保存修復学会：「平成22年度文化財保存修復専門家養成セミナー特別講義」講師 ・滋賀県立琵琶湖文化館 琵琶湖館友の会総会記念講演会 ・滋賀県立琵琶湖文化館：「琵琶湖館友の会総会記念講演会」講師 ・上海博物館：「2010 博物館文物保存環境国際学術検討会」での討議 他 ③文化財の調査にかかる指導助言 ・淡路市埋蔵文化財事務所：五斗長垣内遺跡出土土器付着遺物の分析指導 ・モンゴル カラコルム博物館：博物館運営支援 他 ④作品の展示、保存環境についての調査指導 ・仙台市博物館：チベット展の返却前事前展示確認、作品点検梱包立ち会い ・文化庁、ブリュッセル芸術館：文化庁海外展「アジアへの道」会場における展示等指導 ・韓国国立中央博物館：高麗仏画大展の輸送・展示指導 他 ⑤古文書保存に関する専門講座を開催 ・地域の文化財関係機関と連携して古文書保存に関する基礎的な研修を実施。併せて寒糊吹き実習も実施した。 ・当館において講義「文化財の保存と修理について」「接着剤について～古を中心に～」を開催 ・筑紫野市歴史博物館：「古文書整理の流れと応急手当」講義								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価					
	公私立博物館・美術館等への援助・助言件数	77件	12件	S	経年変化	19 38	20 47	21 39	22 77
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



古文書保存基礎講座の様子



寒古糊吹き実習の様子